



2022年4月8日

報道関係各位

学校法人昭和女子大学

**昭和女子大学附属昭和小学校
新しい英語教育「e-MAP」でグローバル教育強化**

昭和女子大学附属昭和小学校（統括校長 真下峯子・校長 前田崇司）は、2022年度から新しい英語教育「e-MAP」を開始します。このプログラムにより児童の自己肯定感を高め、グローバルマインドを育成します。

■ ■
実技系教科を通して英語を学ぶ

外国語の学習方法に、語学として学ぶのではなく、外国語を通して教科を学ぶCLIL (Content and Language Integrated Learning: クリル、内容言語統合型学習) という学習(指導)方法があります。「e-MAP」は、CLILに則って昭和小学校が独自に開発したプログラムです。音楽(Music)、図工(Art)、体育(Physical Education)の3科目で、週あたり各1時間を、教科の専任教員と英語教員の2人で担当します。「e-MAP」の導入のため、外国人教員3人と英語専科の日本人教員3人、計6人の体制に強化し、1年生から6年生までの指導にあたります。「e-MAP」の主な目的は、実技内容を体感的に学習しながら自然に英語に触れ、理解し反応する機会を増やすことです。あわせて新しい環境に対応する姿勢や、戸惑いがあっても諦めない力を養います。

昭和女子大学附属昭和小学校 校長 前田崇司 コメント

この「e-MAP」では、子どもたちが実技教科の内容を学びながら、より自然な形で英語にふれられるようになり、学ぶ意欲や英語を使っでの学習の基盤となる資質能力の向上にもつながることを期待しています。

日常的に英語と接するスーパーグローバルキャンパス

昭和小学校では、昭和女子大学のアメリカキャンパス「昭和ボストン」での研修はじめ、世田谷キャンパス内にあるブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ昭和の生徒との交流や、テンブル大学ジャパンキャンパスの学生による授業支援など、外国の文化や言語に触れる機会が豊富です。

本件に関するお問い合わせ 昭和女子大学広報部

03-3411-6597 kouhou@swu.ac.jp